

平成16年度から平成21年度までの 活動報告とりまとめ

平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめについて

行動計画期間開始後の6年間(平成16～21年度)における大阪湾再生の取組状況等のとりまとめを実施

概要版は、ホームページへの掲載等を行い、「大阪湾再生行動計画」のPRに活用予定

【目的】

大阪湾再生行動計画の策定時からこれまでの取り組み状況や目標の達成状況等を取りまとめることにより、社会情勢の変化に対応しながら、行動計画期間内の目標の達成に向けて、取り組みをより着実に推進することを目的とする。

【とりまとめ対象】

目標の達成状況

・大阪湾再生に係る具体的な目標の達成状況(アウトカム指標を用いた評価を含む)

施策の実施状況

- 1) 陸域負荷削減施策
- 2) 海域における環境改善対策
- 3) 大阪湾再生のためのモニタリング
- 4) アピールポイントにおける施策の推進
(アピールポイントにおける施策の実施状況および改善後のイメージの達成状況)
- 5) 実験的な取り組み
- 6) 新たな取り組み

目標の達成状況

大阪湾再生行動計画の具体的な目標(水質)

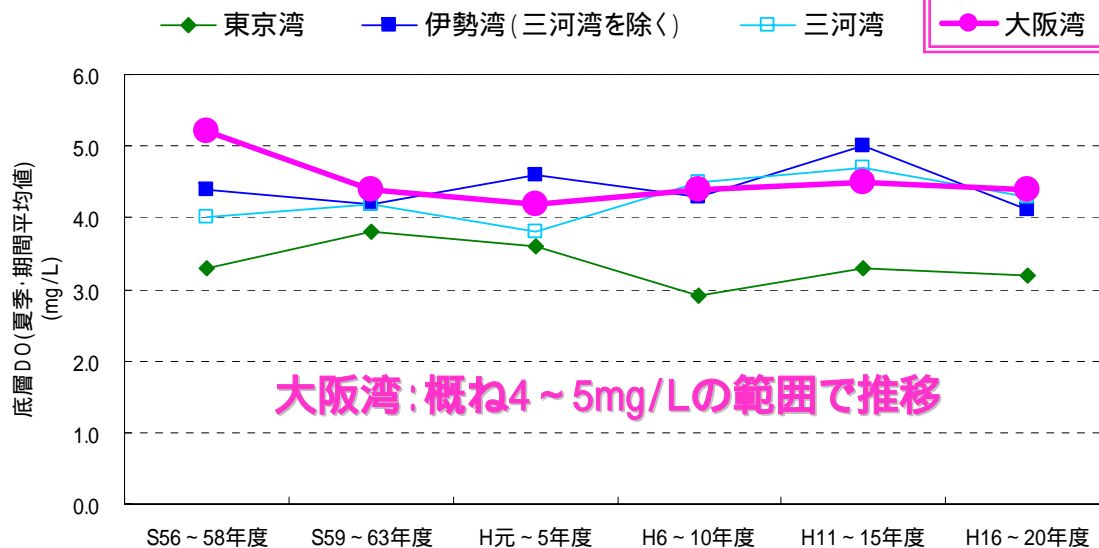
質の改善

区分	具体的な目標	指標
多様な生物の 生息・生育	年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・底層DO 5mg/L以上(当面は3mg/L以上) ・底生生物
人と海との 関わり	人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・表層COD 散策、展望:5mg/L以下 潮干狩り:3mg/L以下 海水浴:2mg/L以下 ダイビング:1mg/L以下 ・透明度 ・赤潮の発生状況

青字は補完のための効果指標(平成20年度選定)

底層DO

湾全体の長期的な推移(夏季(6~8月))

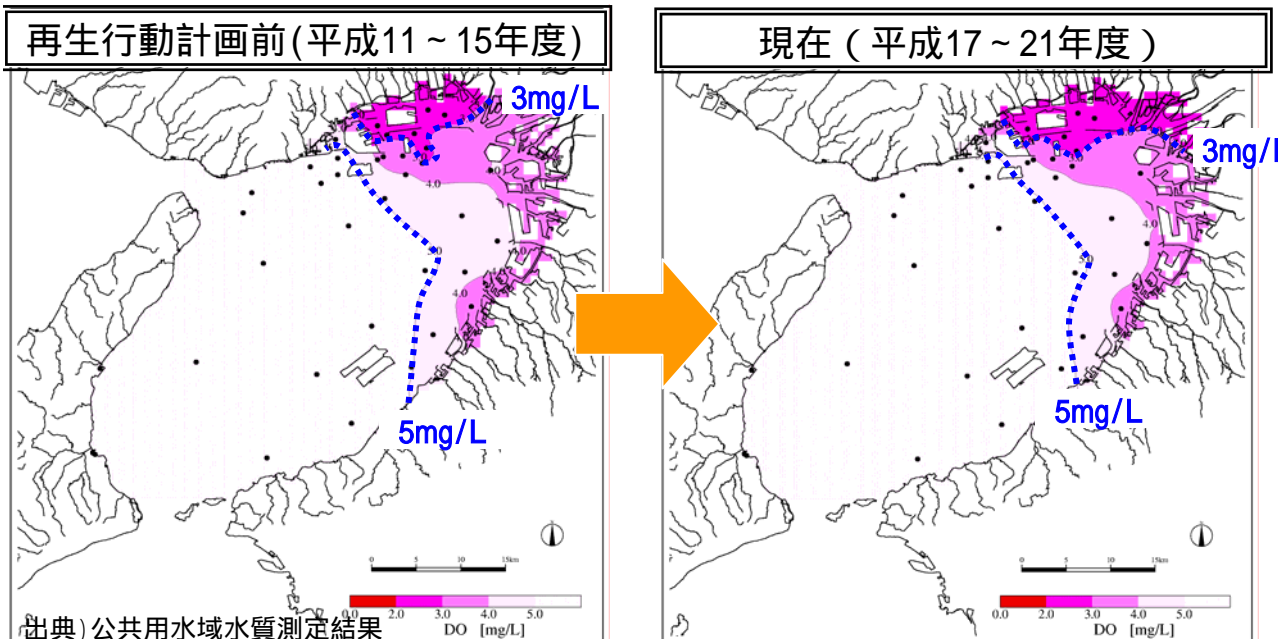


昭和56～平成20年度の長期的な推移をみると、大阪湾は、概ね4～5mg/Lの範囲で推移している。

大阪湾: 概ね4～5mg/Lの範囲で推移

出典) 広域総合水質調査(環境省)

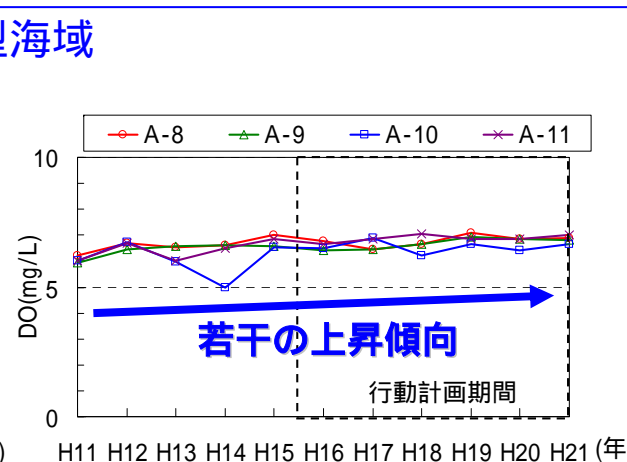
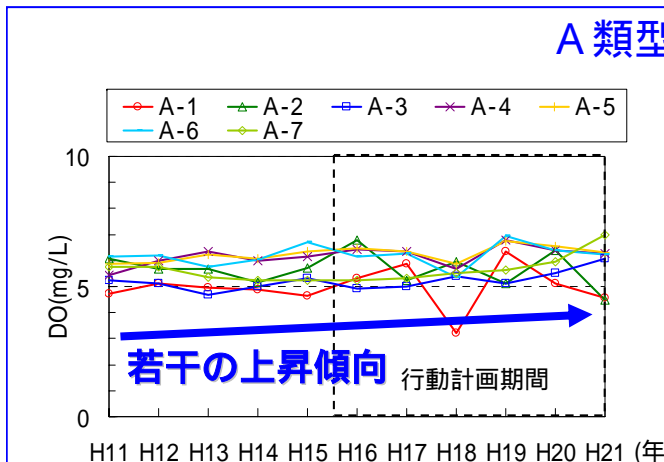
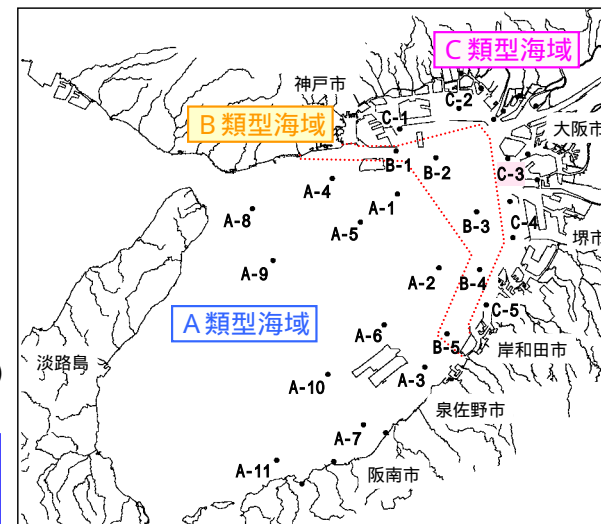
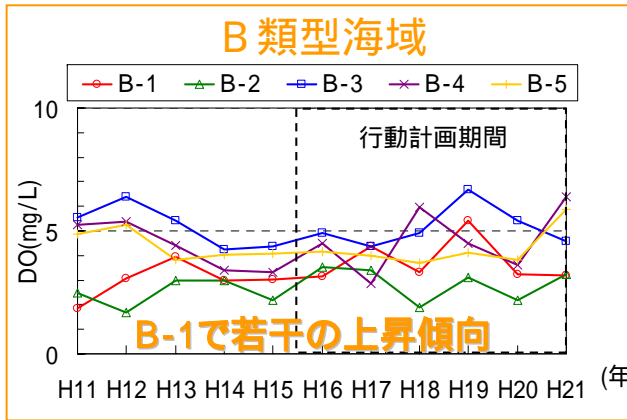
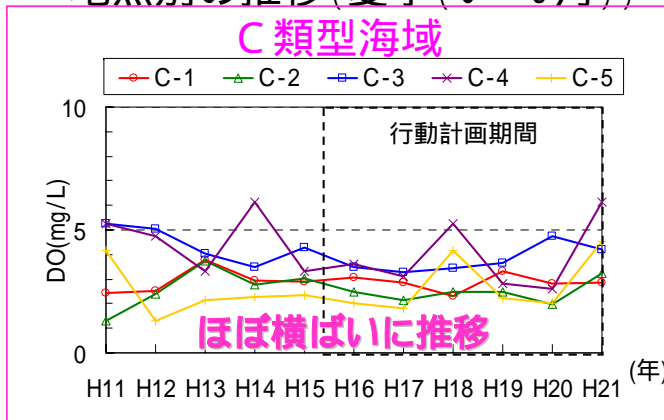
水平分布(夏季(6~8月)5年平均値)



目標の水質レベル
5mg/L以上の範囲は、再生行動計画前と概ね同様に分布しており、湾奥部の港湾区域周辺では、依然として当面の目標3mg/L未満の海域がみられる。

底層DO

地点別の推移(夏季(6~8月))



出典) 公共用水域水質測定結果

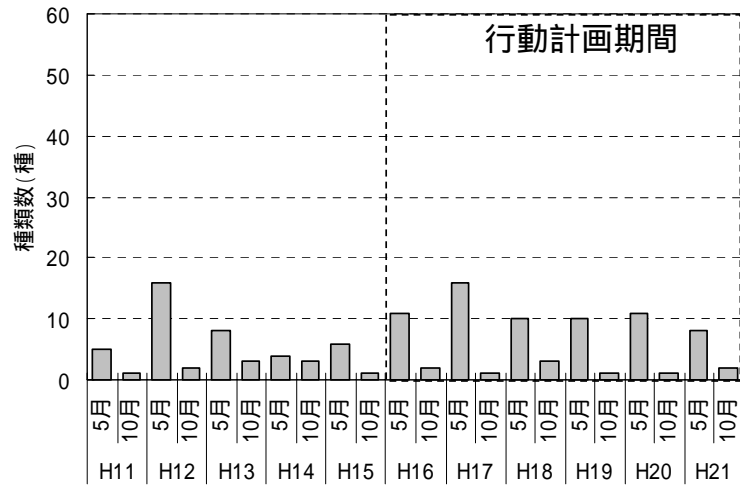
【評価】

A 類型海域他で若干の上昇傾向が窺えるが、明確な改善はみられない。年による変動はみられるものの、概ね横ばいに推移している傾向が窺える。

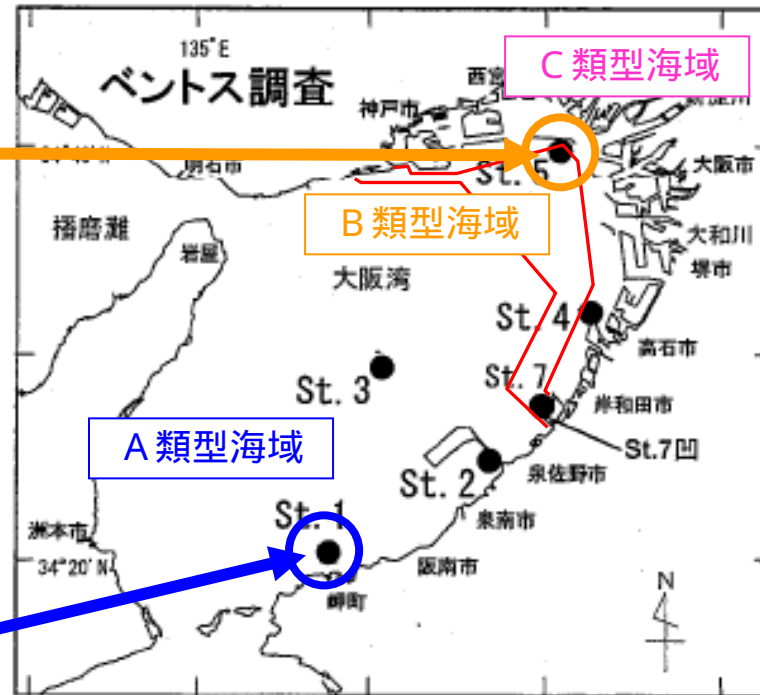
6年程度の短期間では明確な水質改善効果の発現は難しいと考えられるため、引き続き施策を着実に実施していく。

底生生物(種類数)

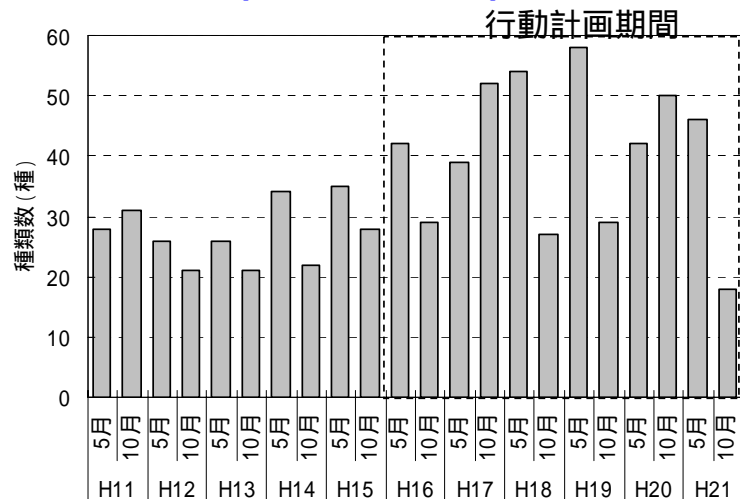
St. 5 (B類型海域)



夏季底層DO: 3mg/L程度



St. 1 (A類型海域)

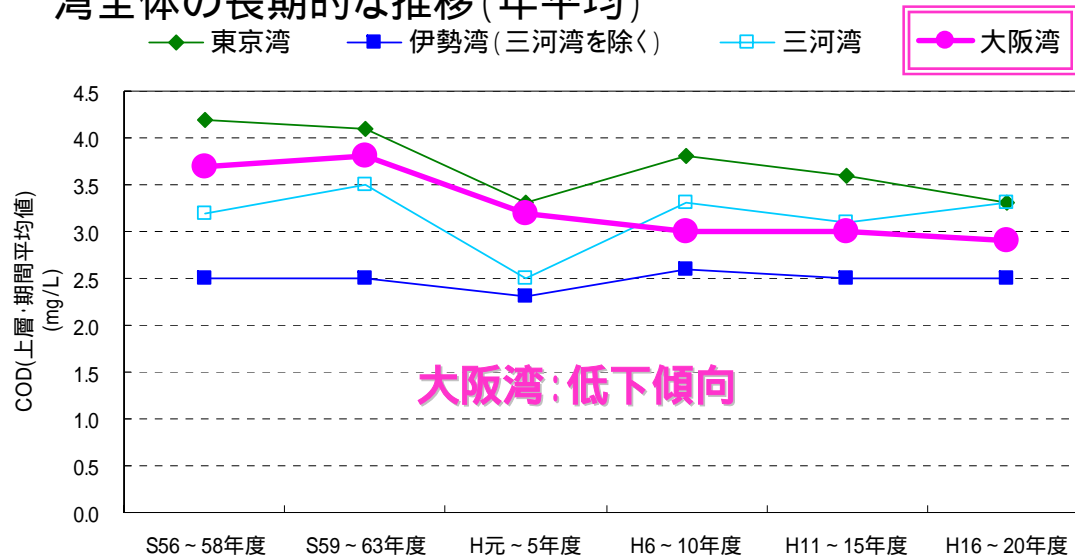


夏季底層DO: 5mg/L以上

夏季の底層DOが低い(3mg/L程度)湾奥部に近いB・C類型海域で少ない傾向がみられる。
 経年変化については、年による変動はみられるものの顕著な変動はみられない。

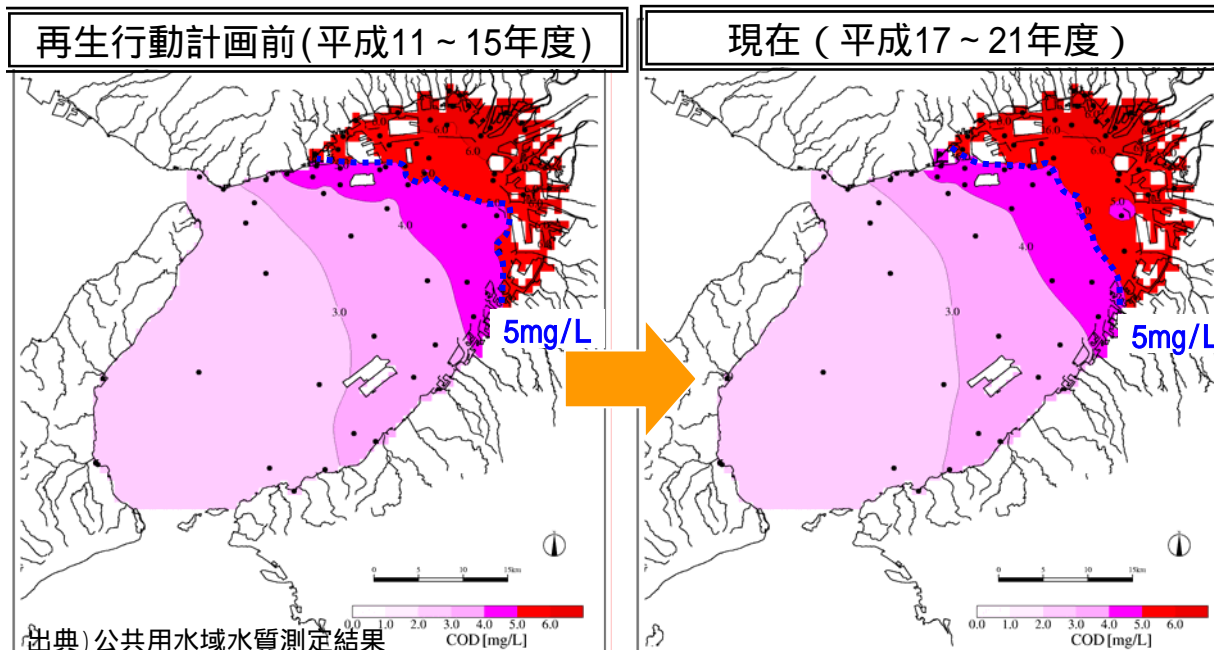
表層COD

湾全体の長期的な推移(年平均)



出典) 広域総合水質調査(環境省)

水平分布(夏季(6~8月)5年平均値)



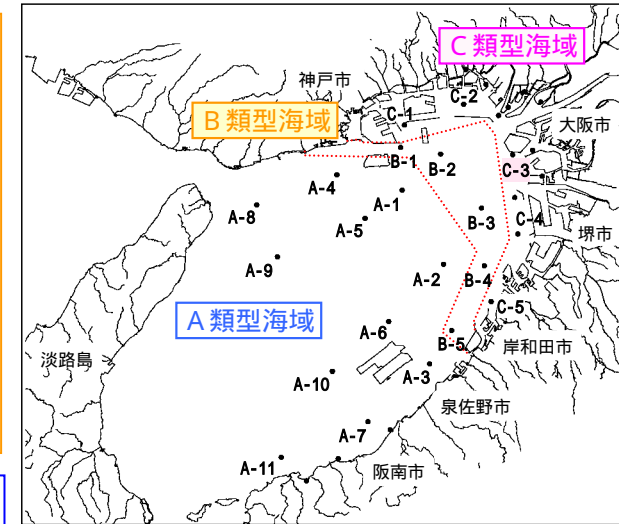
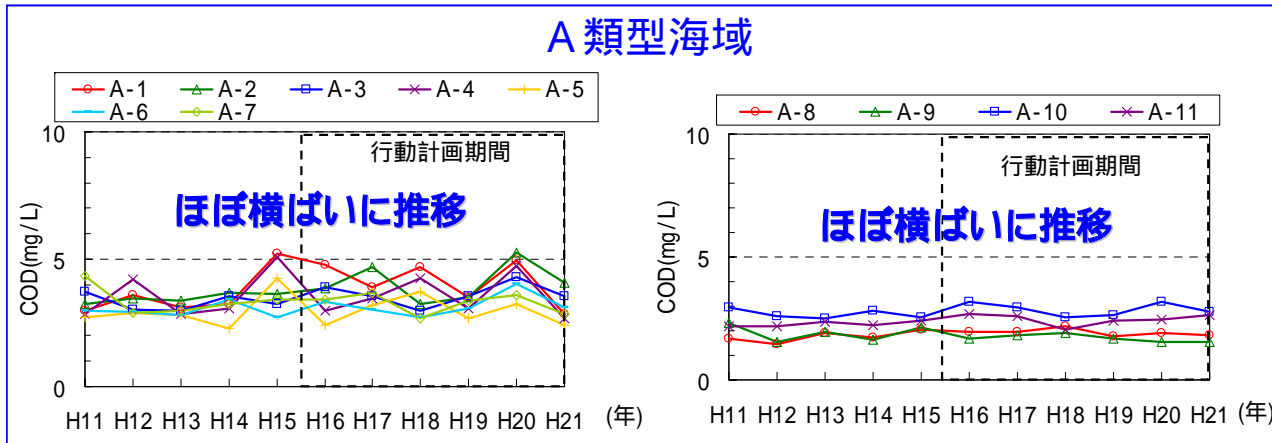
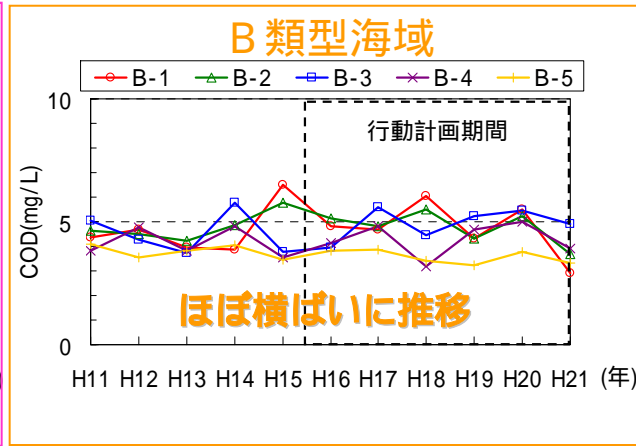
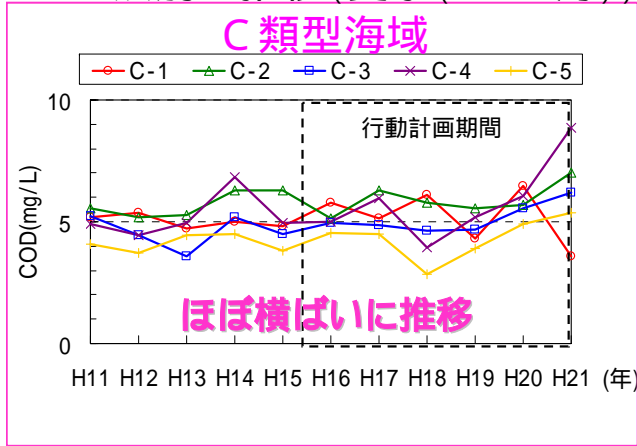
出典) 公共用水域水質測定結果

昭和56～平成20年度の長期的な推移をみると、大阪湾は、低下傾向が窺える。

依然として、湾奥部の港湾区域周辺で、最も親水レベルの低い“散策・展望に適した水質レベル”5mg/Lを超える海域がみられ、再生行動計画前と概ね同様に分布している。

表層COD

地点別の推移(夏季(6~8月))



出典) 公共用水域水質測定結果

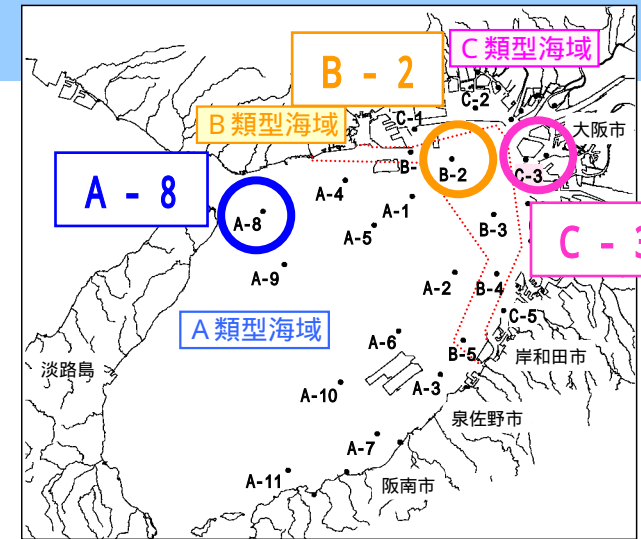
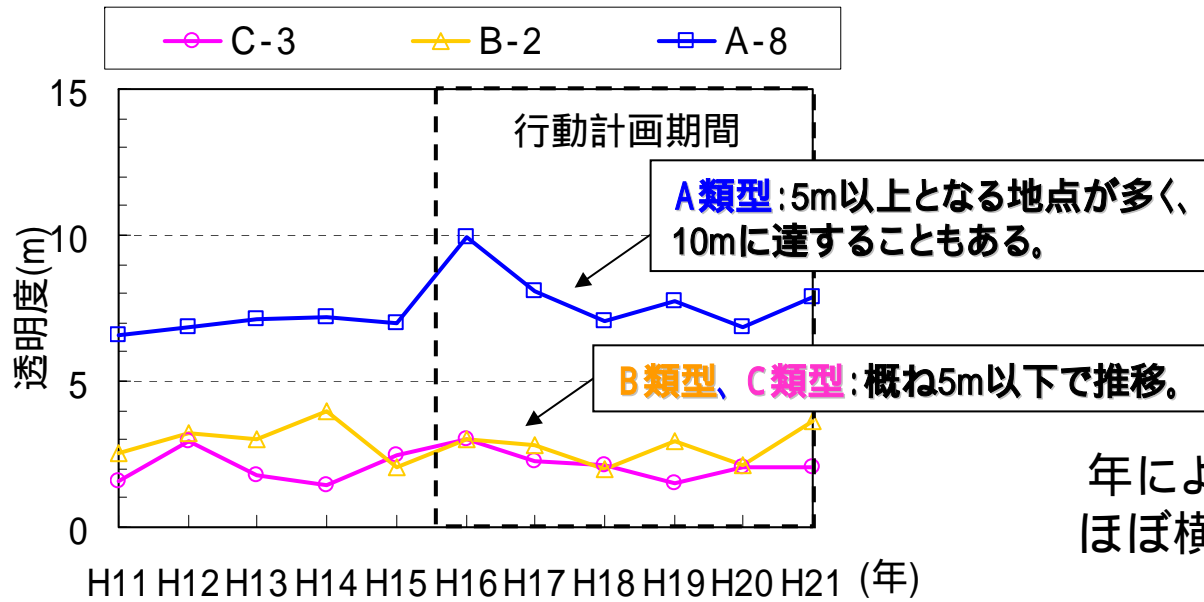
【評価】

明確な改善はみられず、目標の水質レベルに達していない海域が多いものの、長期的には低下傾向にある。

6年程度の短期間では明確な水質改善効果の発現は難しいと考えられるため、引き続き施策を着実に実施していく。

透明度

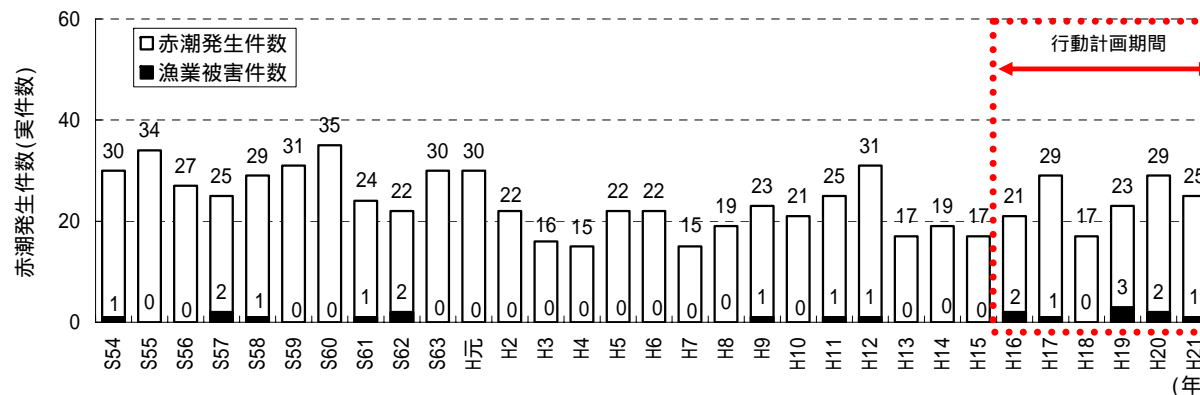
地点別の推移(夏季(6~8月))



年による変動が大きくみられるものの、
ほぼ横ばいに推移している。

赤潮の発生状況

大阪湾における赤潮発生件数・漁業被害件数



年による変動はみられるものの、
発生頻度の減少までには
至っていない。

施策の実施状況

大阪湾再生のためのモニタリング

- 1 大阪湾再生水質一斉調査**
国・自治体・学識者・企業等が連携し、最も水質汚濁が懸念される夏場の1日を定め、大阪湾集水域全域において一斉に水質調査を実施。(平成16年度～)
- 2 大阪湾生き物一斉調査**
市民、NPO等の多様な主体と連携し、一斉に大阪湾沿岸に棲む生き物の調査を実施。(平成20年度～)



白扇潮招

大阪湾生き物一斉調査に参加された方々



- 3 リアルタイムモニタリング**
リアルタイムで情報発信を行うための水質・流況の自動観測装置を、大阪湾内13地点に平成21年度に設置、平成22年度より観測・配信を開始。

大阪湾の水をきれいにする

- 1 窪地の埋め戻し**
堺2区、阪南2区などで、窪地の埋め戻しを試験実施。
- 2 生物による浄化能力の強化**
浜寺水路、岸和田港、大阪北港でコンブ養殖実験、堺2区で礫棚設置実験を実施。

生き物が棲みやすい場所を増やす

- 1 浅場・藻場などの整備**
神戸空港、御前浜で浅場、阪南市・岬町、神戸市垂水地先等で藻場を整備完了。
- 2 護岸の改良**
堺2区で生物共生型護岸を整備完了。



藻場(阪南市地先)



大阪湾に流込む汚れを減らす

- 1 下水道の整備・高度処理化の推進**
2箇所(南あわじ市広田浄化センター、信楽水再生センター)の下水処理場を供用開始。11箇所の高度処理施設の供用を開始。
- 2 河川浄化施設の整備・浄化浚渫**
大和川水系、寝屋川水系、石津川、樫井川、琵琶湖内湖などで、河川浄化施設の整備、浄化浚渫などを実施。
- 3 森林の整備**
琵琶湖周辺(奥島山国有林)や箕面国有林などで、市民の参加を得ながら森林整備を実施。



南あわじ市広田浄化センター



河川浄化施設(樫井川)

大阪湾のごみを減らす

- 1 行政・市民参加によるごみ回収活動**

淀川、大和川などの流入河川や大阪湾において、行政主体、市民主体のごみ回収活動を広く実施。



大阪湾クリーン作戦

人と海との関わりを取り戻す

- 1 自然な海岸線の整備**
尼崎臨海地区、堺旧港、福島海岸において、自然な海岸線(親水護岸など)を整備完了。
- 2 海に面した緑地の整備**
神戸空港、尼崎臨海地区、堺2区などで、海に面した緑地を整備完了。
- 3 環境教育・学習会、イベントの開催**
市民を対象とした環境教育学習会や大阪湾に親しめるイベントを開催。

今後の重点的な取り組み

次の施策について重点的に取り組みを推進する。

行動計画に記載した施策の推進

・陸域負荷削減施策

高度処理化の推進
河川浄化事業・浄化浚渫

・海域における環境改善対策

窪地の埋め戻しや湾奥部などでの底質改善
浅海域(特に、干潟・浅場、砂浜・磯浜)の整備
湾奥部における親水護岸や自然的な海岸線の整備

・大阪湾再生に係るモニタリング

水質・流況自動観測結果を活用した大阪湾の汚濁機構解明

さらに強化すべき取り組み

・市民参加による流入負荷削減

大和川などで実施されている生活排水対策(社会実験)の他の流域への展開

・ごみの削減等の取り組みの拡大

不法投棄対策の徹底・PRの充実